

## 浦ノ内湾のハゼ科魚類 II

高橋弘明・岡本 充

土佐湾のほぼ中央部に位置し、横浪半島により外洋と隔てられた浦ノ内湾は、最大幅 700m に対し奥行は 12km におよぶ極めて細長い形状の内湾である (図 1)。

同湾の魚類相については岡村ほか (1979) が 13 目 83 科 214 種を、岡村 (1991) が 217 種を記録している。また、近年著者の一人高橋は湾流入河川の魚類相について、9 目 22 科 55 種を報告している (高橋, 1995a; 1996a; 1996b; 高橋・瀬能, 1995)。

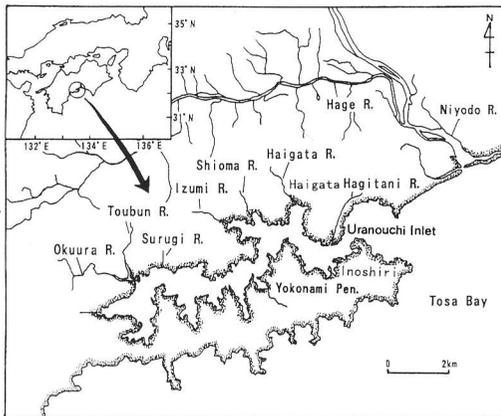


図 1 採集地点の略図

著者らは現在、浦ノ内湾とその流入河川の魚類相調査を継続実施中であり、同湾から未記録のハゼ科魚類 2 種を含む 4 種の分布上興味深いハゼ科魚類を確認した。本報ではこれらの分布・生息状況等について報告する。

なお、本調査の一部は現在、高知県が進めている「高知県版レッドデータブック」掲載種選定作業のための基礎調査の一環として行われたものである。

### 調査方法

調査は手網 (目合 2 ~ 3mm) による採集を主体とし、潜水による目視観察と水中写真撮影が可能な場所ではこれらを併用して実施した。

採集した標本は可能な限り生かして研究室に持ち帰り、生鮮時の写真撮影後、10%ホルマリン水溶液に固定した。種の同定および配列順は明仁ほか (1993) に準拠した。本報告に使用した標本は全て徳島県立博物館魚

類標本資料 (TKPM-P) として登録・保管されている。

### 結果および考察

以下に各魚種の標本番号、採集個体数、標準体長、採集年月日、採集地点の地域別メッシュコード (環境庁, 1997) を示すと共に、分布・生息状況等について記す。

#### 1. イドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* Regan (図 2)

TKPM-P 6786, 1 個体 : 50.6mm SL, 1998 年 4 月 21 日採集, 須崎市出見, 出見川汽水域 : 5033-13-21.

背鰭 1 棘 9 軟条, 臀鰭 1 棘 11 軟条, 胸鰭 14 軟条, 腹鰭 1 棘 5 軟条. 頭長は標準体長の 21.5%, 体高は標準体長の約 10%. 背鰭と臀鰭はほぼ対する. 鱗はなく両眼は皮下に埋没し, 胸鰭上下部に遊離軟条はない. 体色は鮮明なオレンジ色で腹部および尾鰭基部はやや黄色味を帯びる.

「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」(環境庁編, 1991) および「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (Ⅲ)」(水産庁編, 1996) において「希少種」に指定されている。

浦ノ内湾とその流入河川からの記録は今回が初めてであり、出見川河口から 150m 程上流のスジアオノリの繁茂する礫底から採集された。

本種は高知県内では土佐清水市三崎 (Tomiyama, 1936), 須崎市新莊川 (為家・岡村, 1976), 土佐市仁淀川 (為家・岡村, 1976) から記録されているほか、幡多郡大方町有井川 (岡村収博士, 私信) からも確認されているという。このうち、土佐清水市産の標本は掘抜き井戸中から、他は河川汽水域の礫底から採集されている。これらのことから、本種は高知県内の河川汽水域や沿岸部の地下水等に広く分布する (した) 可能性が高いと思われる。しかし、これまでに最も多くの個体が採集されている新莊川を例にとれば、1980 年代以降、河床にシルトが多く堆積する等環境条件が悪化し、採集される個体数は往時に比べ激減したという (岡村収博士, 私信)。今後、本種の特異な生態や生息環境を考慮した上での分布・生息実態調査が急務である。

#### 2. ベニツケサツキハゼ *Parioglossus philippinus* (Herre) (図 3,4,5)

TKPM-P 登録中, 5 個体 : 19.5 ~ 24.7mmSL, 1998 年 4

月 27 日採集, 土佐市宇佐井尻: 5033-13-15.

本種に近縁で高知県下の河川汽水域や漁港内に普通にみられるサツキハゼ *P. dotui* とは主として以下のような特徴によって区別できる(明仁ほか, 1993; 鈴木・瀬能, 1991). 本種の尾鰭黒色斑は雄では中央部から下葉にかけて傾斜して延び, 雌では基部周辺にのみ存在すること(サツキハゼでは雌雄とも傾斜せず中央部に延びる), 眼の後方の暗色縦帯がないか不明瞭であること(暗色縦帯が明瞭), 鰓孔がサツキハゼと比較して狭いこと, 雄の第一背鰭と腹鰭が伸長すること(伸長しない).

浦ノ内湾からの本種確認の経緯は前報(岡本・高橋, 1997)で報告した通りである. 高知県内での確認は1977年9月と1983年10月の土佐清水市下ノ加江川河口, および前報に次いで4例目となる.

同湾内での本種の分布域はこれまでに明らかになったところによれば極めて狭く, 灰方崎の西に隣接する入江の水深 2 ~ 3m の浅所と(岡本・高橋, 1997), 今回新たに採集された湾口に近い土佐市宇佐井尻のテトラポット周辺部に限られる. しかし, 冬季の観察によればこれらの地点においても全く観察されていないことから, 湾内外のより水深の深い場所へ移動するか, もしくは死滅回遊魚である可能性も考えられる.

### 3. ヒナハゼ *Rediogobius bikolanus* (Herre) (図 6)

TKPM-P 6788, 4 個体, 13.7 ~ 17.0mmSL, 1998 年 4 月 21 日採集, 出見川汽水域: 5033-13-21.

本種は高知県下では 1974 年に中村市四万十川から初めて記録され(落合ほか, 1987), その後県下の河川汽水域に広く分布することが確認されている. 浦ノ内湾とその流入河川からの記録は今回が初めてである.

流れが緩やかで転石やヨシ帯等隠れ場所となるものが存在する環境を好む.

### 4. ゴマハゼ *Pandaka lidwilli* (McCulloch) (図 7)

TKPM-P 6787, 20 個体, 12.8 ~ 15.6mmSL, 1998 年 4 月 21 日採集, 灰方川河口漁港内: 5033-13-33.

本種は高知県西部の宿毛市片島から蒲原稔治博士によって国内で初めて採集され, 富山一郎博士により和名を与えられた(Tomiyama, 1936). 高知県内では幡多郡大方町の蛸瀬川(高橋, 1995b)から記録されているほか, 著者の一人高橋(未発表)は幡多郡大方町の蝸川, 吹上川, 中村市四万十川の各汽水域からも少数が生息することを確認している. また, 浦ノ内湾からの記録は道津(1957)以来 41 年ぶりとなる.

灰方川河口左岸に位置する漁港の堤防周辺に群泳して

いる様子が観察された.

本種は近年, 河口域や沿岸部の開発に伴い激減し, 高知県下では蛸瀬川汽水域を除いて安定的な生息場所はほとんど存在しない(高橋, 1995). 灰方川河口部においても生息数は少なく, 今後個体群の動向に注意する必要がある.

## 謝 辞

本調査の機会を与えられた高知県文化環境部環境保全課, 終始有益な御助言を賜るとともに貴重な情報を御提供頂いた高知大学名誉教授の岡村 収博士, ならびに標本の登録・保管に御協力頂いた徳島県立博物館主任学芸員の佐藤陽一博士に心より御礼申し上げます.

## 引用文献

- ・明仁・岩田明久・坂本勝一・池田祐二. 1993. ハゼ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索—全種の同定, p.998-1116, 1355-1365, 東海大学出版会, 東京.
- ・道津喜衛. 1957. ゴマハゼの生活史, 長崎大学学芸雑誌, 16 (1): 85-92.
- ・環境庁. 1997. 都道府県別メッシュマップ 39 高知県, 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室, 東京, 109pp.
- ・環境庁編. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生動物—レッドデータブック—脊椎動物編, 財団法人自然環境研究センター, 東京, 331pp.
- ・岡本 充・高橋弘明. 1997. 今月の魚 ベニツケサツキハゼ. I.O.P. DIVING NEWS, 8 (11): 1.
- ・岡村 収. 1991. 浦ノ内湾と浦戸湾の魚類. 高知大学黒潮圏研究所所報, 6: 33-34.
- ・岡村 収・野口尚生・八木政治. 1979. 浦ノ内湾およびその周辺海域に生息する魚類の種組成生態について. 文部省特定研究「四国南岸海域における海洋生物資源の開発に関する研究」報告書, p.25-28, 高知大学, 高知.
- ・落合 明・古屋八重子・大野正夫・谷口順彦. 1987. 高知県の淡水生物. 高知県内水面漁業協同組合連合会, 高知. 156pp.
- ・水産庁編. 1996. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅲ). 社団法人日本水産資源保護協会, 東京, 582pp.
- ・鈴木寿之・瀬能 宏. 1991. 日本初記録のベニツケサツキハゼ. I.O.P. DIVING NEWS, 3 (1): 4-5.
- ・高橋弘明. 1995(a). 浦ノ内湾流入河川, 灰方川の魚類. 南予生物, 8 (1-2): 4-10.

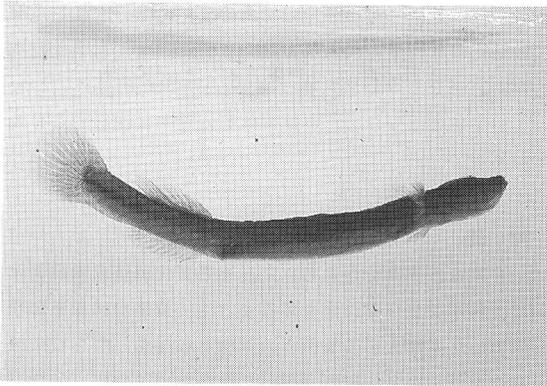


図2. イドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* 撮影: 高橋



図5. ベニツケサツキハゼ *Parioglossus philippinus* (水中写真)  
撮影: 岡本

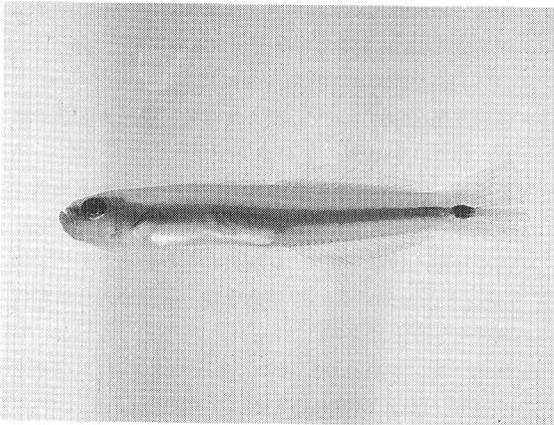


図3. ベニツケサツキハゼ *Parioglossus philippinus* (オス)  
撮影: 高橋

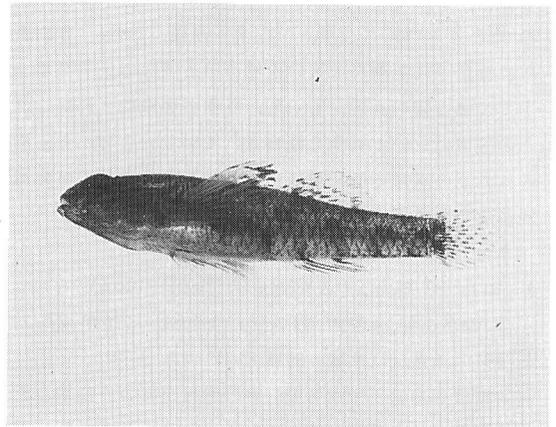


図6. ヒナハゼ *Rediogobius bikolanus* 撮影: 高橋

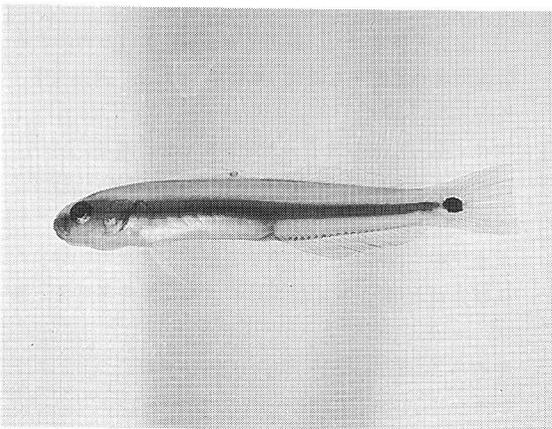


図4. ベニツケサツキハゼ *Parioglossus philippinus* (メス)  
撮影: 高橋

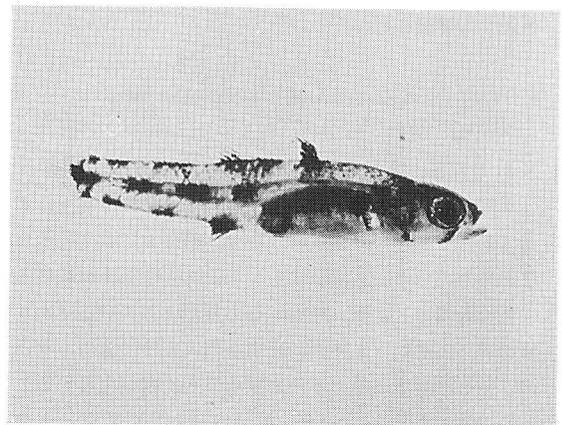


図7. ゴマハゼ *Pandaka lidwilli* 撮影: 高橋

- ・高橋弘明. 1995 (b). 蛸瀬川におけるゴマハゼ *Pandaka lidwilli* の分布・出現様式. 徳島県立博物館研究報告, 5 : 67-74.
  - ・高橋弘明. 1996(a). 浦ノ内湾 (高知県) のハゼ科魚類. I.O.P. DIVING NEWS, 4 (11) : 2-6.
  - ・高橋弘明. 1996(b). 純淡水魚を中心とした高知県中部, 浦ノ内湾流入河川の魚類相. 南紀生物, 38 (2) : 107-114.
  - ・高橋弘明・瀬能 宏. 1995. 高知県で採集されたオオクチュゴイ. I.O.P. DIVING NEWS, 6 (6) : 2.
  - ・為家節弥・岡村 収. 1976. イドミズハゼ *Luciogobius pallidus* の生態について. 日本魚類学会年会講演要旨集, p. 4.
  - ・Tomiyama, I. 1936. Gobiidae of Japan. Jap. J. Zool., 7 (1) : 37-112.
- (たかはしひろあき・おかもとみつる : 西日本科学技術研究所  
〒780-0812 高知市若松町9-30)